

(別紙1)

自己評価及び外部評価 結果

作成日 平成25年6月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792200095		
法人名	社会福祉法人 央福社会		
事業所名	グループホーム かめやん家		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪市生野区巽中4-13-4		
自己評価作成日	平成25年4月10日	評価結果市町村受理日	平成25年6月28日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	tp://www.kaigokensaku.jp/27/index.pl
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 評価機関あんしん
所在地	大阪府岸和田市三田町1797
訪問調査日	平成25年5月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「やさしい気配り 親思ういつくしみの心」を基本に、利用者 1人1人が自分のペースで過ごせるよう、利用者の声を大切にし、個別対応・パーソンセンタードケアができるよう努めている。利用者の変化へ気付き、すぐに対応できるようスタッフ間の連携を図り、意見交換、情報共有を行なうよう心がけている。小規模多機能型居宅介護と併設で、今の利用者は全て小規模多機能ホームを利用していた方々である為、ハード面・ソフト面の環境が変わらない為、馴染みの環境の中、安心して過ごすことが出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

「グループホームかめやん家」は地下鉄千日前線南巽駅から徒歩3分で、国道から細い路地を入った静かな住宅街に建っている。和風の2階建ての建物には1階に同じ法人の小規模多機能型居宅介護事業所があり、2階がグループホームになっている。法人の理念を基本にしてつくられた「スタッフ間のチームワークを大切に、目配り、気配り、思いやりをもってゆとりのある介護をしよう」を目標に、一人ひとりの思いを大切にした支援を行なっている。

利用者は1階の小規模多機能型居宅介護事業所を利用していた方々で、日中の殆どを通いなれた1階で馴染みの人達と賑やかに過ごしている。利用者、職員は地域住民と共に日帰り旅行にも参加し地域の一員としての交流も行なっている。また、事業所は災害時等には避難場所としての役割も期待されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者一人一人が尊厳をもって日々の生活が送れるよう自立を支援し、「やさしい気配り親思う慈しみの心」という理念を共有している。「住み慣れたいつもの地域で慣れ親しんだ仲間の中で住み慣れた自分の家でいつまでも暮らし続けたい」そんな思いを支えるため日々取り組んでいる。事務所内に掲示し、ミーティング時にスタッフ間で確認するよう努めている。	事業所の理念は法人と同じく「やさしい気配り 親思う慈しみの心」である。この理念を基本に事業所独自に「スタッフ間のチームワークを大切に、目配り、気配り思いやりを持ってゆとりのある介護をしよう」を目標に掲げ、入職時や月1回のミーティングで周知、共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事やふれあい喫茶・ふれあいサロン、地域の日帰り旅行・だんじりや布団太鼓の見学等に参加し、交流をもつようになっている。管理者が夜警に参加し地域の方々に事業所のスタッフ・利用者の顔を覚えていただけるようになっている。地域の保育園児との交流会も行っている。	事業所は利用者が地域の人々と交流し、地域とつながりながら暮らせるよう支援している。だんじり祭りには近所の住人が自宅前に利用者用の椅子を用意したり、自宅で生まれた子犬を連れて事業所に遊びに来る等の交流をしている。異地区住民の日帰り旅行には毎年数名の利用者が職員とともに参加している。地域の保育園を訪問し、園児との交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢者の方やその家族様より介護保険について聞かれることもあり、説明・助言に努めている。ただ地域の方々と、認知症の理解や支援方法を伝えたり勉強会を実施するまでには至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	約2ヶ月に1回開催し、地域の会長・地域包括支援センター・推進員・民生委員・利用者の家族に参加して頂いている。運営に関する評価や取り組みに対するアドバイスを頂きサービス向上に努めている。ホームで作っているかめやん家新聞を見ていただき地域の掲示板や回覧板を活用し回覧して頂いている。会議から発信し消防訓練を地域と共に実施したり、地域の防災訓練にも参加することができた。	利用者家族、社会福祉協議会会長、地域包括支援センター職員、地域ネットワーク推進委員、民生委員などが参加し、2ヶ月に1度開催している。事業所の事業報告や意見の交換を行い、会議の中での意見から「かめやん家新聞」をこれまでより広い異地区全体に回覧してもらうようになった。また地区の防災訓練には、職員と共に利用者も参加している。	

5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>必要に応じて、市の担当者・地域包括支援センター等、関連機関へ連絡をし、質問をしたり助言を頂くことができる。市の担当職員とはグループホーム分科会において意見交換をしている。</p>	<p>管理者は事業所運営や、法令について区の担当者に電話や直接出向いて相談するようにしている。ケアマネージャーも必要に応じて、区の担当者と直接連絡を取っている。市の担当者とは大阪市老人福祉連盟グループホーム委員会に参加することにより、直接顔を合わせ情報交換などを行なっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束にあたる具体的な行為の確認と、スピーチロックを継続し、利用者の行動に寄り添えるよう取り組み、不適切ケアにつながらないよう意見交換し接遇面の改善に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、天気の良い日には、窓や玄関を開けるなど、施錠しない環境作りに取り組んでいる。</p>	<p>事業所の玄関は日中開錠されていて、利用者に外出したような様子や希望があれば、職員と一緒に外出している。月に1度のミーティングにおいて身体拘束にあたる具体的な行為とスピーチロックにつながる言葉使いの確認を行なっている。日々のケアのなかで、気になる言葉使いなどがあった場合、職員間や管理者で注意を行なっている。</p>	
7		<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>常に利用者の方の心身の状態（表情・健康状態・入浴時のボディチェック）を観察している。また、利用者と家族との関係性を把握し、相互の話を傾聴することで虐待にならないように注意している。</p>	/	/
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度の分かりやすい資料をスタッフに回覧し勉強している。また、職場外で研修に参加したスタッフが職場内に伝達研修をし、学ぶ機会を作っている。活用している方も1名居られる。</p>	/	/
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書・重要事項説明書の読みあわせをし、十分に説明を行なっているが、介護保険について理解されていない家族も多く理解を得るのが難しいのが現状である。又、日頃より不安なこと、疑問点等が解消できるよう話し合っている。</p>	/	/

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口、玄関に意見箱の設置をしアンケート式の記入用紙を置いているが、あまり反映されていない。ただ、月に一回はホームに足を運んでもらえるよう利用料を振り込みではなく持参して頂いている。その際に、コミュニケーションを大切にする為、積極的に声をかけ、何でも言っただけのような関係性や雰囲気作りを心掛けている。電話での報告も都度行っている。</p>	<p>利用料を直接持参してもらうことで、月に1度は家族には事業所に足を運んでもらっている。家族等と直接顔を合わせ利用者の状況を伝えて、意見や希望を聴取する努力をするなかで個別のケアに関する希望や意見等が出ている。玄関にアンケート式の入紙と意見箱を設置している。必要時電話やメールで連絡をとる際に、意見を聴き取るようにしている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>月に一度のミーティングや管理者が業務に入ることで、同じ視線や日頃より話をする機会を多く持ち、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。業務や行事、物品等の意見や提案もスタッフ間で意見交換し、反映させている。</p>	<p>管理者はケアの現場に入り、日頃から職員とコミュニケーションを取りいつでも意見が言えるような雰囲気作りをしている。月に一度のミーティングを行うと共に、管理者が職員と個人面談をすることで、さらに職員が意見や提案をしやすくなるよう努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者が代表者と密に連絡を取り、職員個々の現状について報告を行なっている。向上心を持てる環境作りやスキルアップのため研修にも参加できるよう努めている。また、年に1回の昇給、年に2回の賞与を行なっている。法人としても、職員が資格を取得できるよう勉強会を実施している。人事考課表の導入や年度の目標を設定し、それを元にスタッフとの面談も随時行っている。</p>	/	/
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>未経験や無資格のスタッフ、その方の力量を把握するよう努め、その方の知識や能力に合わせた指導方法で育成するよう心がけている。外部研修を受ける機会の確保、働きながら資格が取得できるよう勉強会の実施やシフトの調整等、努めている。新人職員には教育ノートやチェック表を使用し教育している。</p>	/	/

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>大阪市老人福祉連盟のグループホーム委員会の集まりに定期的に参加し近況報告を行なっている。その中で、他の事業所の取り組みについて意見交換、情報交換を行なっている。また、他の事業所への見学会にも参加している。ただ、全スタッフが交流を持てる関係性までは築けていない。</p>		
----	--	---	---	--	--

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事前に家族・利用者ともに面談を行い、情報収集した上で、現在困っていることや不安なこと、ニーズについて話を聞き、今後どうしていきたいかについても話し合っている。全利用者が小規模多機能サービスからの利用のため、家族や利用者の方とも信頼関係はある程度築けており、またリロケーションダメージ等は少ないと考えられる。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス内容を明確に説明し、家族・利用者のニーズを聞いた上で、ホームで可能・不可能な対応について伝えている。他のサービスとの違いを話し、必要に応じて他のサービスの説明も行っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>サービス内容を明確に説明し、家族・利用者のニーズを聞いた上で、ホームで可能・不可能な対応について伝えている。他のサービスとの違いを話し、必要に応じて他のサービスの説明も行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>散歩や買い物等の外出や行事・日々の暮らし（掃除、調理、花の水やり、洗濯）を通して、利用者とは何かを一緒にする姿勢を持ち馴染みの関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と情報を共有し、ホームでの様子や行動等を伝えることで、共に本人様を支えていけるよう関係作りをしている。月に一度はホームに足を運んでもらうようにし、また、行事を通して、利用者と家族が接する機会を作り同じ時間を共有できるよう働きかけている。</p>		

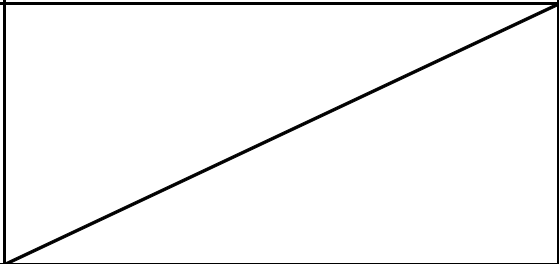
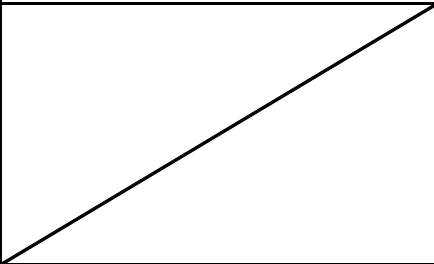
20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近所のスーパーマーケットや薬局等に買物へ出かけたり、昔の自分の住まいや、地域の行事・ふれあい喫茶・ふれあいサロンに参加し、馴染みの人たちと交流が持てるようにしている。遠方の兄弟等の所にも付き添いし外出したことがある。また、手紙や電話にて連絡を取ることもある。</p>	<p>近所のドラッグストアやスーパーマーケットへ買い物に出かける利用者には、職員が同行している。馴染みの人への手紙や電話も、相手に気持ちや様子が伝わるよう支援している。職員の付き添いで、新幹線を利用して広島に会いに行った利用者もいて、これまでの人間関係が継続できるような支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士の関係性を把握し、座る場所等にも工夫をしている。必要に応じて孤立しないようスタッフが間に入り心配りすることで、利用者同士がコミュニケーションを図れるよう支援している。</p>	/	/
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>契約終了後も、利用者や家族の要望に応じて情報提供行なっている。また、家族にお会いして近況を伺ったり電話等で相談にも応じている。他の施設・病院に直接、様子を伺いに行くこともある。</p>	/	/

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>個別に話をする機会をつくり、本人の意向や思いを確認するようにしている。また、ホームでは各利用者の担当を決め、日常の様子を観察し、申し送りやケース記録にて情報共有し、カンファレンスにて本人本位の想いに近づけるよう話し合いをし検討している。意思表示が困難な方もおられるが、家族様から情報を得たりし本人の意向に近づけるように努めている。</p>	<p>職員は一人ひとりの利用者に向き合う時間を持つよう努めている。利用者の言葉や表情の中から気持ちを汲み取った職員は、事業所が独自に作成した気づきシートに記入し、全ての職員が共有できるようにしている。また、家族からの事前の情報等により、利用者の思いを把握し、気持ちに寄り添った言葉かけができるように努力している。</p>	
----	---	--	--	--	--

24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>初回のときに大抵の事は情報収集し把握をしているが、細かい部分是一緒に過ごして行く中で把握していくことが多い。そのためにも、利用者・家族とコミュニケーションを図り、日々、情報収集に努めている。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一人一人の現状の暮らしを把握するために、家族やそれぞれのスタッフからの情報を、スタッフ間で共有するよう努めている。皆が同じ対応ができるよう統一項目のファイルの作成、スタッフ間の連絡帳、申し送り等を活用している。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当制をとりミーティングやカンファレンスを通じて話し合いを行ない、それぞれの意見を反映するよう努めている。また、介護計画を定期的に見直しをし、家族・本人の意向を元に担当者・管理者・ケアマネにて意見交換をしている。必要に応じて、家族・医師・看護師とも話し合いを行ない現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者の担当職員はミーティング等で、利用者の見守りのなかで気付いたことや意見を出し合い、サービス担当者会議に繋げている。担当者会議には、利用者、家族、ケアマネジャー、管理者、医師などが出席し3ヶ月に1度の定期的な見直しを行ない、利用者の現状に即した介護計画を作成している。利用者家族には、事前に連絡をとり、家族の都合に合わせて日程調整を行い会議への参加の呼びかけをしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子をケース記録や申し送りにて情報の共有に努めている。各利用者の担当とケアマネジャー、管理者、看護師を中心に話し合い、対応や介護計画を見直している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>急な利用者・家族のニーズにも柔軟に対応するため、シフトや体制を整えている。</p>		

29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に積極的に参加したり、ホームの行事に地域のボランティアを招いている。ボランティアを通じて本人の能力が発揮でき、安全で豊かな暮らしができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム利用前からのかかりつけ医を大切にしているが、家族の希望で、他の病院を紹介することもある。通院介助には、スタッフもしくは家族が同行し、利用者の様子を伝え、適切な医療が受けられるよう相互に連携を取るように取り組んでいる。スタッフが通院に同行した場合も報告をしている。その方の必要に応じて、毎週の歯科往診や2週に1回の精神神経内科の往診、月に1回の皮膚科の往診の体制も整えている。</p>	<p>事業所の利用前からのかかりつけ医に受診出来るよう支援している。通院は基本的には家族が同行しているが、都合がつかない場合は職員が同行し、結果はケースファイルに記録し、家族に報告している。緊急の場合は電話やメールで連絡を取り、適切な治療が受けられるよう迅速な対応を行っている。毎週の歯科往診、精神神経内科や皮膚科の定期的な往診もあり、必要な診察が受けられるように支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>ホーム内に週5回、看護師が勤務しており、利用者の体調の変化や状態等の情報を報告・相談し、利用者の健康管理に努めている。利用者にとっても安心を与えられる存在になっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時、本氏の薬・医療・介護の情報を整理し病院へ提供している。定期的に病院に訪問、連絡をすることで、ソーシャルワーカー、看護師、医師、家族と連携を図り情報交換に努めている。退院前には、今後の対応について話を聞き相談している。</p>		

33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に重度化・終末期のあり方について指針を元に説明をしている。ホームでは医療が常時必要になれば対応できないこと説明して同意頂いている。また、面会時・受診時や状態の変化があるごとに説明し、スタッフ間や家族とも話し合いし出来る支援を行っている。</p>	<p>「重度化対応・終末期ケア対応指針」を文書化し、契約時に本人や家族から希望を聴きとっている。医療行為が常時必要となれば対応が出来ないことを説明し、同意をもらっているが、体調の変化や受診結果を基に、家族や本人と相談しながら現状で出来る支援を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に勉強会を実施し、看護師を中心にスタッフへ指導している。また、急変や事故発生後は、そのときの対応を振り返りカンファレンスをし意見交換を行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に二回、定期的に消防訓練を実施している。利用者にも参加頂き、夜間を想定しての避難訓練も実施した。運営推進会議を通じて、地域との協力体制を築いていくための話し合いをし、地域住人とも一緒に消火訓練を実施したが、個人情報との兼ね合いもあり地域との連絡方法等まだまだ課題が残っているのが現状である。地域では防災マップを作成し、施設の消火器も使用できることを伝えている。</p>	<p>毎年6月と12月に消防訓練を実施し、6月には消防署立ち会いのもと、地域住民にも参加を呼び掛け、火災を想定した消火訓練を行っている。12月は、夜間の職員体制を想定した自主訓練を行い、避難時に持ち出せる避難バッグを準備している。避難バッグには利用者人数分の3日分の食糧、水、排泄パック等を準備し、すぐに治療が受けられるよう資料も作成し保管している。小学校で行なわれた地域の避難訓練に参加し、情報の収集と地域との連携に努めている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者の疾患や性格等に配慮し、一人一人にあった声かけや対応をし、プライバシーにも配慮している。対応の難しい方にもカンファレンスをし、対応の統一をしている。再認識をするため、ミーティング等において、都度、スタッフ間に注意を呼びかけている。記録物は鍵のかかる戸棚に保管している。</p>	<p>利用者の日々の状態を把握して、気持ちに寄り添った言葉かけを行っている。気持ちを表わせない利用者には、職員の気づきを記録した用紙を利用したり、ケアカンファレンスで話し合いながら、利用者の気持ちを把握し、人格や誇りを損ねないような対応を心がけている。毎年勉強会を実施し、言葉使い等、職員間で確認しあっている。利用者の個人記録などプライバシーに関わる書類は鍵のかかる書庫に保管している。</p>	
----	----	--	--	---	--

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>利用者が思いや希望を表したり、意思を尊重した自己決定ができるよう、本人に選んでもらえるような声かけを分かりやすくゆっくりとするよう働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>なるべく一人一人が好きな事をしてもらえるように本人のペースを大切にしているが、スタッフの人数等にも限りがあり、日によっては利用者のニーズに沿う事が出来ない時があるため、気をつけていかなければならない。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ひげそりや、スカーフを巻いたりその人の好みの服を一緒に選んだり。化粧やおしゃれをしている。本人の行きつけの美容室や訪問の理美容を活用している。自分でできない人にも、だらしのない格好にならないよう配慮をしている。また、自分で服を選べる方には買物に出かけ一緒に服を選び購入している。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>出来る方には、食事準備・調理・配膳・下膳等、手伝っていただいている。食材は配食業者から購入しホームで調理し提供しているためメニューは決まっているが、嫌いなものや食事に偏りがある方には、別の物を提供したり、補食として購入したり個別の夕食にて支援している。他には、好きなものを食べる為、行事・夕食・おやつ作りで取り入れている。スタッフと一緒に食事をし、会話を楽しみながら食事をしている。本人希望で居酒屋に夕食に行ったりしている。</p>	<p>毎日のメニューは配食業者が作成したもので、食材は業者から購入し、事業所の調理室で職員が調理している。調理や配膳・下膳は利用者に声かけし、出来ることを一緒にしてもらっている。個人の嗜好や嚥下状態に合わせた形状に調理し、職員も同じテーブルで食事をしている。クリスマスや鍋パーティー等の行事食では、一緒に食材の買物に行ったり準備や調理をすることで季節を感じ、食事を楽しめる工夫をしている。また、年2回行き先の希望を聴き取り、夕食を楽しむ機会を設けている。</p>	

41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食時の食事量、随時、水分量を記録し把握に努めている。摂取量が少ない方には声かけや介助で促している。その方に応じて食事量を調整し、また、栄養剤や捕食で補っている。都度必要に応じて介助皿や自助具の使用、食事形態を工夫し、摂取できるよう努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを促し、出来ない方にはスタッフが口腔ケアを行なっている。定期的に訪問歯科や本人の昔からのかかりつけの歯科の協力を得ている。訪問歯科の協力により職場内研修をしその方に応じた口腔支援にも取り組んでいる。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、本人の排泄パターンを把握することに努めている。必要な方には、トイレ誘導を定時に行い介助している。夜間、紙パンツの方でも、日中はパッドを外したり布パンツで対応するなど、その方に合わせた支援をし、トイレで排泄が出来るよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表で個々のパターンを把握し、トイレ誘導を行っている。日中は出来るだけ紙パンツを使用せず、布パンツを使用し、自立にむけて支援している。夜間、紙パンツを使用している利用者もいるが、巡回時にトイレ誘導している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎日の排泄チェック・排便確認をし、水分摂取を促している。日中、体操等で体を動かしている。利用者によっては、ヨーグルトや栄養剤を提供したり、医師と相談し下剤等で調整している。</p>		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>ある程度、曜日は決まってしまうている。また、全ての利用者の希望の時間や曜日に提供は出来ていないが、その中で、毎日入浴したい利用者には入浴していただいている。浴槽は二つあり、一つはリフト浴となっている。一人一人、お湯を変え誰もがきれいなお湯に入る事ができる。個々の疾患や体型、希望に応じた湯量や温度も変えている。ホームでは月に一度の入浴剤やゆず風呂をし季節感を楽しんで頂いている。また、個人でも毎日、入浴剤を使用している方や入浴の無い日は足浴をしている方も居る。</p>	<p>利用者はそれぞれ 曜日や時間を決めて入浴しているが、体調によって時間をずらしたり、足浴や清拭に変更したりするなど柔軟な対応を行っている。原則同性介助を行っているが、職員の配置により異性介助となる場合は必ず事前に説明して承諾を得ている。浴槽は普通浴槽とリフト付き浴槽があり、その日の体調や希望で選択している。浴槽のお湯は一人ずつ入れ替え、好みのお湯の持ち込みも可能で、一人ひとりが入浴を楽しめるよう支援している。また、月に一度事業所のお湯入れやゆず風呂を用意し、季節を感じられるような機会を設けている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>日中、居室やソファにて休んでいただいている。自発的な訴えがない方にも、本人の様子・表情等を見て横になっていただいている。</p>		
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>それぞれの服薬の内容、目的、副作用など分かるようにし、把握するよう努め、随時確認できるようにしている。変更があった場合、必ず、全スタッフに周知し、利用者の様子を観察、確認している。薬局との連携も大切にしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>レクリエーション・外出・行事・買い物、出来る方には調理、洗濯等の手伝いを活用し支援している。また、それぞれが好きなことを出来るよう、スタッフが関わりを持つよう心掛けている。利用者の方の生活歴などを理解した上での関わりをしていくよう努めている。</p>		

49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>日中、近隣や近くの公園に散歩に出かけたりスーパーや薬局に買物や外食に出かけたりしている。また、花見や動物園等の外出行事、地域の行事などで支援しているが、季節によってもそうだが、一日の業務やスタッフの人数等で行けない時もある。行きたいところはないか利用者の意見を聞き、外出行事を考えたり、個別の外出支援を行っている。</p>	<p>日中には希望があれば近隣の100円ショップや薬局、喫茶店に個別対応で出かけている。気分転換を兼ねて、玄関横の花壇の水やりや散歩に誘い、戸外に出ることができるように支援している。大阪城での花見や動物園、ふれあい喫茶やふれあいサロンへの定期的な外出等、事業所のスケジュールや利用者の体調等考慮しながら、出来るだけ多くの利用者の希望に沿った日常的な外出支援に努めている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>事業所内はトラブルにならないようお金を預からせていただいている。家族様より預かったりホームでも立て替えたりと、いつでも使えるよう支援している。</p>	/	/
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>希望された時は、希望通り電話をお貸ししている。自分で電話をかけるのが難しい方にも、スタッフがつなげたりと対応している。手紙を書かれたり、正月には年賀を送ったりできるよう支援もしている。</p>	/	/
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関は昔ながらの上がり框があり。利用者の作品や花を飾っている。台所は対面式になっており、利用者を作る音が聞こえ、匂いがする。フローアーには、利用者とその季節のものを作り飾っている。トイレは車椅子の利用者が使いやすい広さになっている。天気の良い日は窓や玄関を開けて開放的にしている。個人差もあり難しいが、利用者の様子で温度の調整を行っている。</p>	<p>玄関は引き戸で、入るとすぐ利用者と職員が一緒に作った作品が飾られ、採光も良く、明るい空間になっている。フローアーには、近隣の幼稚園児から贈られた貼り絵等、季節に合った作品を貼っている。日中は、テレビを觀賞したり、ペーパータオルを畳んだりしながら、好きな場所で過ごせるようになっている。フローアーには床暖房が入っており、温度調整もフローアーの半分ずつ行うことができるようになっている。トイレは広く、車椅子での使用も、可動式の手すり、ファンレストテーブルが設置されている為スムーズに移動や移乗ができる。</p>	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>仲の良い利用者同士、イスやソファに座ったり他のサービスの方とのなじみの交流も行なっている。利用者同士の関係性を把握し、席やテーブルの配置を工夫するなど取り組んでいる。スペース上の問題もあり、共用空間の中で独りになれるスペースの確保は難しく、独りになりたいときには、居室で過ごされている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>持ち込みを自由にしており、こたつを持ってこられたり、使い慣れたものや好きなものを持ってきていただき、出来るだけ本人が居心地良く過ごせるよう努めている。入居後も、ホームで作ったものや写真等を飾りつけている。また、自室にて冷蔵庫を使用し自分で購入した物を入れている方もいる。</p>	<p>居室にはベッド、テレビ、ロッカー、エアコン、温湿度計付きの時計、カーテンが備え付けられてある。身の回りの物や、置物等使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込むことができ、安心して過ごせるよう配慮している。家族の写真や事業所で写した写真などを飾っている利用者や、冷蔵庫を持ち込み、買ってきたおやつなどを入れている方もいる。居室内の温度は利用者の好みに合わせて、温度を確認しながら調整している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>1人1人のできること、分かることをスタッフが理解し、その中でも鍵をかける等しなくても安全に暮らせるよう支援している。必要な部分への手すりの設置、入浴時の滑り止めマット、また、移動スペースの安全確保に努めている。本人が不安なことやできない事は手伝い自立支援に努めている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない